

大津島データ 136世帯
人口 179人 男 76人 女 103人
高齢化率 79.9%
(令和6年3月31日現在)



潮流

題字：末兼南子さん イラスト：大津美子さん



須金・大津島地区交流会

5年ぶりに大津島ふれあいセンターにて、須金・大津島交流会が行われました。昨年9月に招待された須金地区での交流会に引き続きの開催となりました。島の伝統芸能である回天踊りに始まり、島ならではの飲み物やお刺身のおもてなし・最後のカラオケ大会では、予想より多い参加者で盛り上がりました。

滞在2時間に満たない大津島トラベルでしたが、晴天に恵まれ、葉桜でのお花見気分もギリギリ味わえたので、さくら



祭りに相応しい須金・大津島交流会となりました。関係者の皆様、朝早くからご協力いただきありがとうございます。



文川大津島支所 中村 卓広



これからよろしくお願ひします



はじめまして、4月より大津島診療所に参りました看護師の住田敏江です。白髪も目立ちますが、気持ちはいつも若くありたいと思っています。いつでも、お気軽にお声掛け下さい。

大津島診療所 住田 敏江



4月から診療所で働いている福谷です。島の自然に癒されて、皆さんとのご縁を大切にしたいと思います。宜しくお願い致します。

大津島診療所 福谷 美佳



4月から大津島デイサービスセンターで勤務する事になりました。訪問ヘルパー兼務致します。安心してご自宅での生活を続けて頂ける様、お手伝い出来たらと思います。よろしくお願い致します。

大津島デイサービスセンター 加瀬澤 令子



4月から大津島の担当となりました。高齢者の方々のいろいろな相談窓口として、要介護認定の申請や介護保険サービスの利用、住宅改修や福祉用具の相談調整、100歳体操や協議体の支援をしております。訪問は月2~3回の予定で、ご家庭やデイサービスなど回ります。大津島は、初めての担当です。どうぞよろしくお願い致します。

つづみ園地域包括支援センター 高辻 裕嗣



令和6年4月1日付で回天記念館に勤務することになりました岩崎です。来館される方に意義ある時間を過ごしていただけるよう日々研鑽を重ねて参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

回天記念館 岩崎 達也



4月から大津島を巡回することになりました。よろしくお願い致します。

周南警察署 吉岡 亨

お世話になりました



スナメリに感動して11年3カ月。大津島診療所を支えて下さった関係各所の方々、島の皆様大変お世話になりました。大津島におきましては、沢山の方々との

の出会いがあり教えていただくことの多い勤務でした。体調不良や家庭の事情で島を離れなくてはならない患者さんとの別れも沢山ありました。お一人、お一人のお顔が浮かび、思いは尽きない大津島です。今までも、これからも島民の皆様のご健康と安心して生活されます事を心より願っています。

大津島診療所 廣本 ノリコ



1年、大変お世話になりました。大津島での生活のサポートに十分にお役に立てて喜んでましたが、皆さんと一緒に100歳体操をしたり、海の郷

で開催される協議会で意見交換したり、なにより皆さんとお話が出来た事がとてもよい思い出となりました。ありがとうございました。後任の高辻も、よろしくお願い致します。

つづみ園地域包括支援センター 松田 俊也



大津島の皆様、お世話になりました。4年間の回天記念館勤務でしたが、長いようで短い期間だったように

思います。船から記念館まで出会うと暖かいお声をかけていただきありがとうございました。大津島の自然、温かい皆様に毎日元気もらって通勤することができ大変ありがとうございました。これから釣りを覚えて、大津島にも来てみたいと思っていますので、その時はよろしくお願い致します。

文化スポーツ課 佐伯 孝洋



文=佐々木 照彦

島人を訪ねて

時々、こう言うことがある。

目的をもって須々万にあがる。ええとこの辺じゃなかったかいのお。ふと、若潮の会のメンバー宅を思い出し、行ってみる。ラジオの音が聞こえる。いたいた、庭で草をとっていらっしやる。「久しぶりじゃね」から話が弾む。「最近帰っちょらんのんじゃあ。そういやあ、年会費払っちょらんかった。」と言って自宅内へ会費を取りに。とりあえず1年分頂くことにした。

話は変わって、この原稿を書いている頃は満開の桜が散り始めて、川面が花筏になっている。最近、新聞に掲載されていたということもあるが「散る桜 残る桜 散る桜」という良寛和尚の句が、頭の中に残っている。素直な捉え方もあると思うがいろいろなところに置き換えた捉え方をしよう。

若潮の会は、今年度も様々な活動を行っていくつもりですので、引き続きのご指導ご協力をお願いいたします。

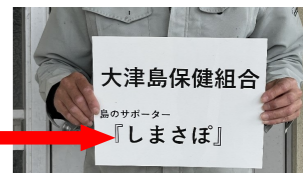
★『しまさぼ』が引っ越しました！

こんにちは。島のサポーター『しまさぼ』です。

このたび事務所を大津島診療所医師住宅1階に引っ越しました。

『しまさぼ』では今後、従来の身の回りのサポート(草刈など)に加え、JAの灯油・肥料のご自宅への運搬も考えています。(予約制。詳細はまだ改めてご連絡します)。御用のある方は下記までご連絡下さい。

〒745-0057 周南市大字大津島 1361-4
島のサポーター『しまさぼ』事務局 Tel: 080-1090-2180



★ 大津島診療所の診察体制変更のお知らせ



平素より大津島診療所をご利用いただきありがとうございます。令和6年4月から、大津島診療所の診察日が変更になります。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

診療日：カレンダーを配布します。
診療時間：10時～12時30分
13時30分～16時30分
※診療日が週3回から週2回へと変更になります。
診療時間の変更はありません。

お問い合わせ先
大津島保健組合
☎ 080-7706-4881
大津島診療所
☎ 0834-85-2200

お知らせ

【次回潮流発行予定日】
7月1日 第298号

善意銀行へのご寄付ありがとうございます

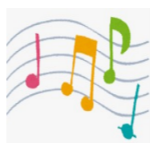
▼預託者 渡辺 義久 様
父 古城 喜代重 様の香典返しとして
金10万円(市社協7万円、大津島社協3万円)
▼預託者 匿名 金1万円(大津島社協)

移動図書館 やまびこ号ジュニア
5月28日(火)、6月14日(金)
馬島11:30～ 刈尾12:20～

【編集後記】やっと過ごしやすい季節になりました。毎年の事ですがバタバタする時期にもなります。気合いを入れて頑張ります。皆さん、寒暖の差が激しいですが体調管理に十分気を付けましょう。

文責：大津島支所 原田 和保

知っちょるかね 知らん歌



文||松本 千恵子

この護りは葛原様よ。仰へアオキの青々と。伸びる馬島。ホントええとこよ。これは馬島小唄?或いは馬島音頭という歌の一番である。一番は 春は桜よ、と始まり多分六番位まであったと思うが、残念ながら思い出せない。なにせ、八十年余りの、母が高等科の頃の女先生が作ってくれた歌だと言うのだから。母はその歌を聴いた時、随分と嬉しくて我が故郷を誇りに思ったと、この歌を歌う度に話していた。葛原様は勿論、馬島のお宮の事で、アオキとはお宮の裏に黒々と聳えびくえていたアオキの大樹の事だった。この歌を歌っていた母が亡くなって二十数年。アオキの方はそれよりももっと早く、老木となり倒れてしまっそうになり、切り倒されてしまったので、その頃の景色は跡形も無くなってしまった。この歌も歌われる事も無くなった。時代は変わる。その思いで、誰も歌うこともなくなった歌がある事に、大した感慨も無かった。しかし、ここへきて我が身がそろそろ亡くなった母の年代になり、ふと私が死んだら、この歌は誰も知らなくなるんだと思いだった。

時代の趨勢すうせいで、島民も減るばかり。これまでの島の歴史を継ぐ人も居なくなるのかも知れない。

それでも、せめて知っている事は次に伝えるように足掻いていたい。色々な行事が縮小され、遂には無くなってしまいうな時代に、私達は生きています。平家踊り、お宮の祭り、お大師様、二十六夜、どこまで残していけるだろうか。そして、それぞれの家のひとつひとつの歴史。島でも墓終いをする今。歴史を次に伝え残す事の意味を私達は、どう考えるのかと思いつつも、この小さな存在の私が何が出来るでなし、だからせめて知っている事だけでも、と思つてこの「知っちょるかね」を書いていくんだ。そろそろネタも尽きそう。という事でどれ位続けていけるか危うくなっているけれど、もうひとつ、知らん歌を。

「花は桜木 回天乗りは若い命を 惜し

みませぬ 花も蕾も二十歳で散るも 何

の君の為 国の為国の為」これは、工廠

で兵隊や工員が歌っていた歌で、母達挺

身隊の娘達も做って歌っていたものだそ

うだ。これは四番位まで、あつたと思つ

この歌はまだ、だいたい覚えてるが、こ

れも後を継ぐ人は居ないかも知れないな

あと、思うのでここに書き残した次第。

どなたかまだ、覚えてる方がいるかも

知れないなど、少しの期待を込めて。

徳山 見聞録

44 ナマコやホヤ、ネコノエビの話し

文||大津島巡航 三崎 英和

子供のころ、父親が大根おろしと醤油をかけて食べているのを見て知ったナマコですが、その時、少し食べさせてはもらったものの、おいしいとはまったく思いませんでした。

そんなナマコを獲りに行くことと中学生時代、友達に誘われて、近江の対岸にあたる津木港に放課後、4本刃のヤス(当時は「カンツキ」と言っていました)と10ℓのバケツを持って出かけて行ったことがあります。その時は、防波堤や防波堤につながれている船の上から、海底にいるナマコを突いて獲りましたが、ほんの十数分程度でバケツ一杯となり、それを家に持ち帰りました。

あのときの大量のナマコを母親はどうしたのか。今になっては知る由がありませんが、津木港にあれだけたくさんいたナマコを近年は見かけることがなくなりました。

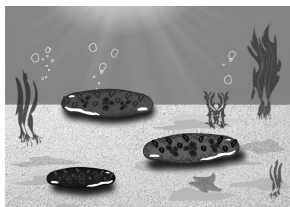


イラスト 三崎さん